

科目名	20. 生活行動からみるからだⅣ 食べて出す				
履修年次	1年次	科目区分	専門基礎分野	単位数 (時間)	1単位 (30時間)
ディプロマポリシー(DP)	<input checked="" type="checkbox"/> 人を大切にするところ <input type="checkbox"/> 現象を適切に把握し地域で生活する人を支える看護実践力 <input type="checkbox"/> チームの中で連携・協働するための力 <input type="checkbox"/> 専門職業人として自己研鑽する力				
科目目標	個体の維持に必要な不可欠な物質の供給と排泄のしくみを理解することができる				
到達目標	自分のからだに関心をもちながら、生活行動の原動力となる食べて出すしくみについて表現することができる				
評価方法	筆記試験(100点)				
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会				
参考文献					
教育方法と学生への期待(求めること)	看護の対象である人間のからだがどのようなつくり(形や働き)になっているのかは看護学にとって最も基本的な知識の一つである。からだの知識は、病気の理解、病気等による生活行動への影響の理解、看護援助につながっていくので、しっかり身につけていって欲しい。ここでは、個体の維持に必要な不可欠なエネルギー源、蛋白源、水などを供給する食べる・飲む、食物を吸収される形にまで分解する消化と吸収(消化器)、供給されて内部環境を整えることに使ったあとに外部環境に戻す(腎泌尿器・消化管)を設定する 講義で人間のからだのどのようなつくり(形や構造、働き)になっているのかを理解する。そのためには自己学習が必要不可欠である。得た知識を使える知識に(生活行動からからだの働きを理解する)なるように努めて欲しい。				
回	学習項目	学習内容			授業方法
1	食べる①	口・咽頭・食道の構造と機能			講義
2	食べる②	食欲 食行動 咀嚼し味わう 飲み込む(嚥下)			講義
3	消化と吸収①	消化管(胃・小腸)の構造と機能			講義
4	消化と吸収②	栄養素の消化と吸収			講義

5	消化と吸収③	膵臓の構造と機能 肝臓と胆嚢の構造と機能	講義
6	消化と吸収④	肝臓の機能 腹膜	講義
7	便を出す	消化管(大腸(結腸))の構造と機能 S状結腸・直腸・肛門の構造 便意と排便	講義
8	尿をつくる①	腎臓の構造と機能 糸球体の構造と機能	講義
9	尿をつくる②	尿細管の構造と機能 傍糸球体装置の機能	講義
10	尿をつくる③	クリアランスと糸球体濾過量 尿の生成	講義
11	尿を出す	排尿路の構造 尿の貯蔵と排尿	講義
12	体液調節①	人体の成分と体液 水の出納	講義
13	体液調節②	塩類のバランス 酸塩基平衡	講義
14	ごはんを食べて便として出す	食べたものがどのようにしてエネルギーとして使われ、不要なものはどのように排泄される？	演習
15	尿を出す	尿が濃い時、薄い時がなぜあるの？	演習